

積雪地帯のレタス秋定植・越冬栽培は無農薬で端境期収穫が可能！！

【背景・目的・成果】

県北部地域の冬期間は、積雪が多く、日照が少ないため露地の野菜栽培は困難です。そこで、この気象条件を活用して、レタスの苗を秋に定植し、積雪下で越冬させて、雪どけ後から生育させる作型を実証しました。その結果、レタスは雪の下で越冬し、雪どけ後の生育も順調であり、品種を組み合わせることにより、無農薬栽培で4月下旬から5月中旬の端境期の収穫が可能です。

播種及び定植期

播種期は10月上旬(高標高)から中旬(低標高)とし、200穴セルトレイで育苗します。播種後、約35日で定植に適した苗が育成できます。



育苗と定植適期のセル成型苗(神鍋高原)

積雪期及び雪どけ後

定植は本葉5~6枚の時、11月上中旬の降雪前に行い、根雪になるまでに活着させます。レタスは積雪下でも枯死せず越冬します。



定植期11月(夜久野高原)

レタスは雪の下(1月)

雪どけ後3月下旬と生育期4月(神鍋高原)

生育及び収穫期

品種を組み合わせることで、収穫時期を拡大し、無農薬で栽培できます。「パークレー」は4月下旬、「ウイザード」は5月上旬、「シスコ」は5月中旬など春の大型連休に収穫時期となり、レタスの需要期に有利な出荷が可能です。



生育盛期4月中旬(夜久野高原)

収穫直前4月下旬(おおや高原)

収穫した「シスコ」(おおや高原)

【技術の活用】

レタスの播種時期は、その地域の降雪期を考慮して行い、35日苗程度で定植し、本葉約10枚で越冬させます。ほ場の排水対策を確実にし、雪どけ時の湿害に注意が必要です。

